

心理学関係邦訳書目録——明治篇（上）

田 中 邦 夫

はしがき

以下は心理学関係の邦訳書のうち、明治期に刊行され、当館に所蔵されているものの目録である。日本における心理学は、諸科学の中でも明治以前にその源流を有することの最も少ないものの一つであり、明治25年（1892）に至ってなお西村茂樹がその「心学講義」の中で、従来の心学と心理学とを区別しなければならなかったというほどである。いわば典型的な移入学問であった。しかしそれにもかかわらず欧米からの心理学書の翻訳・紹介の状況がどうであったかは、比較的等閑視されてきたように思われる。日本の心理学書の総目録には岸本惣吉「日本心理学書年次・種類・著者類別」（1937）、および国立国会図書館支部上野図書館「邦文心理学文献目録稿（単行本）」（1953）があり、翻訳書についても記載されているが、原著者や原題については触れられていない憾みがあった。

本目録は上記の二書と「国立国会図書館所蔵 明治期刊行図書目録」第1巻（1971）の「哲学の部・心理」を中心とし、日本における初期の心理学に影響するところの大きかった進化論的思潮を代表するものとして、ダーウィン、スペンサーの若干の著作を加え、さらに教育、医学等の部門からも採録したものであって、訳書自体の序文の類や他の多数の文献を参照して、凡例に示す各項目について出来得る限り明らかにし

ようと試みたものである。参考文献としては今田恵「心理学史」（1962）および城戸幡太郎「心理学問題史」（1969）を主とし、訳書自体の記載に疑問がある場合はこの二書に従った。さらに不明な場合は内外の諸種の人名事典や百科事典、書誌を参考とした。なおスペンサーについては山下重一「ベンサム、ミル、スペンサー邦訳書目録」（『参考書誌研究』第10号）を参照した。

凡 例

- ①配列は原著者のABC順により、原つづりが不明の場合は該当すると思われる頭字の者の末尾に置いた。同一著者の著作は年代順、同一書の訳書はその刊行年代順とした。
- ②まず原著者、年没年、国籍を示し、簡単な説明を付した。次に原題、刊行年を記し、各訳書については訳書名、訳書記載の形での原著者名、訳者、出版社、冊数、ページまたは丁数、叢書名、請求記号を示し、さらに書誌的事項の補遺や、その他興味ある点があれば末尾に〔 〕に入れて記した。なお、原書が当館に所蔵されているものについては、原題の後に請求記号を記したが、この場合翻訳に用いられたものとは版次等が異なることもある。
- ③抄訳、重訳、紹介、解説等について厳密に区別することは不可能であったが、判断できる限りは示しておいた。重訳の場合、

その原本となったものについても記すようにした。なお、解説・紹介の叢書として主なものに次の二つがある。

心理学書解説 育成会 明33~35 正6冊 (12冊合本), 続2冊 <87-10>

倫理心理宗教教育社会学哲学泰西新著梗概 [第1~2輯 (4冊)は「倫理心理宗教社会学純正哲学泰西新著 梗概」] (「新著梗概」と略記) 中島力造編 明38~大9 17冊 (13輯) [明治期刊行11冊 (7輯)] <78-66>

「哲学雑誌」等にも若干の紹介、解説があるが、今回は図書に収録されたものに限った。

④関連する図書、および国内発行の欧文図書や翻刻本も記載したが、その場合書名の前に*をつけて区別した。

ANGELL, James Rowland (1869~1949, 米) シカゴ大に実験室を設立、シカゴ学派の祖となる。機能主義心理学を提唱した。

Psychology, or introductory study of the structure and function of human consciousness, 1904. <174-153>

(1)心理学 エンゼル著 田中治六解説 目黒書店 明38 (1905) (新著梗概 第3輯下 p117~153) <78-66>

(2)機能主義心理学講義 ジェー・アール・エンジェル著 上野陽一訳 同文館 明43 (1910) 786p <335-73>

[第4版 (1908)の全訳]

BAHR, Hermann (1863~1934, 独) 著作家。多くの小説や紀行文がある。

原題、刊行年不詳

(3)夢の研究 ヘルマン・バル著 大日本精神学会訳 盛文館 明41 (1908) 91p <25-718>

[引例に和漢のもの多く、翻案と思われる]

る]

BAIN, Alexander (1818~1903, 英) アバディーン大学教授。生理学をとり入れた心理学の体系化を試みた。

Mental and moral science, 1868, pt 1, psychology and history of philosophy. <G47>

(4)倍因氏心理新説 井上哲次郎抄訳 大槻文彦校 青木輔清刊 明15 (1882) 和2冊 (4冊合本) 本文計170丁

<6-161>

* 倍因氏心理新説積義 麻生繁雄編 井上哲次郎校 同盟舎 明16 (1883) 和38丁 <特38-314>

〔(4)の語彙集であるが、意志 (will)、観察 (observation) 等現在と変らぬ一方、委頓 (depression: 抑鬱)、本性 (instinct: 本能) 等の古い訳語も見られ興味深い〕

(5)倍因心理全書 亞歴山倍因著 松島剛、田中登作、佐藤亀世、橋本武訳 普及舎 明19 (1886) 4冊 計916p

<28-39>

〔(6)の第4章までの訳〕

(6)倍因氏心理学 亞歴山・倍因著 矢島錦蔵訳 [出版者不明] [明19~21 (1886~88)?] 634p (第1~6回合本)

<27-8>

〔背表紙、巻末には上巻とあり〕

Mind and body; the theories of their relations, 1872. <1-16>

(7)心身相関之理 アレキサンダー・ベイン著 森本確也、谷本富訳 大倉書店 明20 (1887) 310p <22-153>

BALDWIN, James Mark (1861~1934, 米) トロント大等各地に実験室を設立。発達心理学の先駆者。

Mental development in the child and the race, 1895. <126-104>

(8)ボルドキン氏原始的心理学 長谷川誠也述 東京専門学校出版部〔明35(1902)〕
和114 p (名著綱要文学教育科)

<41-102>

〔「原始的」は genetic の訳語〕

Social and ethical interpretations in mental development, 1897. <129-123>

(9)ボルドキン氏精神発達之説明 松本孝次郎解説 育成会 明34 (1901) 166 p
(心理学書解説分冊第12) <87-10>

BINET, Alfred (1857~1911, 仏) パリ大学の生理学的心理学実験室の創設者。ビネー・シモン式知能検査法を作成した他, 多方面に業績。

La psychologie du raisonnement; recherches experimentales par hypnotisme, 1886.

英訳: Psychology of reasoning, 1901 <113-246> による

(10)推理の心理学 ビネー著 淀野耀解説 目黒書店 明40 (1907) (新著梗概 第3輯上 p152~166) <78-66>

Les alterations de la personnalité, 1892.

(11)ビネー氏人格変換論 速水滉解説 育成会 明34 (1901) 144 p (心理学書解説分冊第8) <87-10>

BJÖRNSTRÖM, Frederik Johan (1833~1889, スウェーデン) 医学者。

Hypnotismen, dess utveckling och nuvarande ståndpunkt, 1887.

英訳: Hypnotism; its history and present development, 1889, tr. by Baron Nils Posse.

(12)催眠術 ジョーンズツロム著 渋江保重訳 博文館 明27 (1894) 184 p (寸珍百種第50編) <71-157>

ブーミー, エミール (1835~?, 仏)

原題, 刊行年不詳

英訳: The English peoples; a study

of their political psychology. [E. イングリッシュ訳]

(13)大英国民 エミール・ブーミー著 加藤直土重訳 大日本文明協会 明42 (1909) 480 p (大日本文明協会刊行叢書第11編) <78-98>

CHARCOT, Jean Martin (1825~1893,

仏) 神経病学者。催眠術を研究。パリ大学でビネー、フロイト等を指導した。

(14)沙涒河博士神経病臨床講義 シアルコー述 佐藤恒丸訳 東京医事新誌局 明39~44 (1906~11) 3冊 計1,288 p <53-57>

[サルペトリエール病院における1887年11月~1888年7月, 1888年10月~1889年6月の前後計47回にわたる臨床講義の訳]

COMPAYRÉ, Jules-Gabriel (1843~

1913, 仏) 教育学者。進化論, 児童心理学, 教育史等を研究。

L'évolution intellectuelle et morale de l'enfant, 1893.

(15)教育応用根氏心理学 能勢栄重訳 金港堂 明26 (1893) 512 p <42-193>
[ウィリアム・ペーン (米) の英訳による]

(16)児童心理学 コムペーレ著 田中勝之丞重訳 金港堂 明33 (1900) 382 p <252.5-13>

[Mary E. Wilson (米) の英訳 Intellectual and moral development of the child, 1896による]

COOLEY, Charles Horton (1864~1926,

米) 社会学者。パーソナリティと社会の関係を研究。Human nature and the social order, 1902. <173-71>

(17)人生と社会組織 クーリー著 山辺知春解説 目黒書店 明38 (1905) (新著

梗概 第1輯上 p80~191) <78-66>
DARWIN, Charles Robert (1809~1882, 英) 進化論の提唱者の一人として多方面に影響を及ぼす他、表情や幼児の研究で直接心理学ともかかわりをもった。
 On the origin of species by means of natural selection, 1859. <14-64>
 (18) 人類成来論綱 達賓著 仁田桂次郎抄訳 中近堂 明20 (1887) 43 p <25-294>
 (19) 生物始原・一名種源論 チャーレス・ダーキン著 立花鏡三郎訳 経済雑誌社 明29 (1896) 958 p <467.5-cD22s3-T>
 (20) 種之起源 (生存競争適者生存の原理) チャーレス・ダーウィン著 東京開成館訳 兵浅治郎校 東京開成館 明38 (1905) 893 p <99-148>
 [渡瀬庄三郎述「ダーウィンの一生及びその事業」104 pを付す]
 The descent of man and selection in relation to sex, 1871. <68-29>
 (21) 人祖論 査爾斯・駝顔著 神津専三郎纂訳 山中市兵衛刊 明14 (1881) 和3冊 計161丁, 図版 <7-111>
 [全21章中第1~7章, 21章の訳]
 (22) 人類の由来及び雌雄淘汰より見たる男女関係 チャールス・ダーウィン著 田中茂穂訳 隆文館 明42 (1909) 1089 p <467-D42-2 a>
 [第2版 (1874) による]
DITTES, Friedrich (1829~1896, 独) 教育学者で「ベダゴギウム」誌の主筆。
 Lehrbuch der Psychologie, 1873.
 (23) 姪氏心理学 藤代禎輔訳 金港堂 明28 (1895) 288 p <72-241>
DONALDSON, Henry Herbert (1857~1938, 米) 神経生理学者。シカゴ大教授。
 The growth of the brain; a study of nervous system in relation to educat-

ion, 1895. <147-275>
 (24) ドナルドソン氏脳髓之発達 雀部顕宜解説 育成会 明35(1902) 178 p (続心理学書解説分冊第2) <87-10>
DUNTON, Larkin (1828~1899, 米) 教育者。ボストン・ノーマル・スクールの教頭。
 原題, 刊行年不詳 [雑誌論文]
 (25) 心理学之応用 西村正三郎訳 田中登作, 松島剛校 普及舎 明20~23 (1887~91) 3冊 計528 p (尚友会叢書) <23-68>
DUPRAT, Guillaume Léonce (1872~?, 仏) 倫理学者。
 La morale, 1901.
 英訳: Morals; a treatise on the psychosociological bases of ethics, 1903. tr. by G.L. Greenstreet. <171-91>
 (26) 倫理学の心理学的及び社会学的基礎 デュプラール著 中島半次郎解説 目黒書店 明39 (1906) (新著梗概 第2輯上 p67~91) <78-66>
エーステルキー (?)
 原題, 刊行年不詳
 (27) 結合心理術・記憶法報書 エーステルキー著 竹前信行訳 中島生駒校 松前岩太郎編 神濃堂 明25 (1892) 18 p <特16-563>
 [友成新太郎著「即席記憶法」(明23), 田中貞三郎著「記憶の秘訣」(明40)等4篇で合本となっている。Eastlake, Frank Warrington (1858~1905, 米) と思われるが不明]
FOUILÉE, Alfred Emile (1838~1912, 仏) 哲学者。イデ-フォルス (観念力) という考えをと考えた。
 Esquisse psychologique des peuples européens, 1903. <132-140>
 (28) 歐洲各国民の心性 アルフレッド・エミール・フィエ著 稲垣末松訳 大日本

文明協会 大1(1912) 上下2冊 計
926p (大日本文明協会刊行書 第2期
第4,5編)

上巻<361.6-F42>, 下巻<343-5>

GALTON, Francis (1822~1911, 英) 優
生学の提唱者。統計学を応用して個人差を研究, 「天
才と遺伝」(1869) 等多くの著作を著した。

(a) Eugenics; its definition, scope and
aims. (b) Studies in national eugenics.
In: Sociological papers, 1905-6.

㉑ユー・ジェニックス ゴールトン著 得
能文解説 目黒書店 明40(1907) (新
著梗概 第3輯上 p89~100)

<78-66>

〔ユー・ジェニックスの訳語として, 善生
学, 善種学, 人種改良学等は「穏当を欠
くの嫌いもあれば, 原語を用いた」とあ
る〕

GIBSON, William Ralph Boyce (1869
~1935, 英) ロンドン大学講師

The problem of freedom in its relation
to psychology. In: Henry Sturt, ed.,
Personal idealism; philosophical essays
by eight members of the University
of Oxford, 1902; p134~192.

<192-28>

㉒自由に関する問題 ギブソン著 中島
力造解説 目黒書店 明38(1905) (新
著梗概 第1輯下 p97~104)

<78-66>

HALL, Granville Stanley (1846~1924,
米) アメリカ心理学会創立者の一人。児童心理学, 青
年心理学, 宗教心理学などの開拓者。

Adolescence; its psochology and its rel-
ations to physiology, anthropology,
sociology, sex, crime, religion and
education, 1904. <250-414>

㉓青年期の研究 スタンレー・ホール著

中島力造, 元良勇次郎, 速水滉, 青木宗
太郎訳 同文館 明43(1910) 683p

<328-334>

HARRISON, Elizabeth (1849~1927, 米)

アメリカの幼稚園教育の開拓者。下記は50版以上を重
ね, 8ヶ国語に訳された。

A study of child nature, 1890.

㉔児童研究・一名児童教育の枝折 エリ
ザベス・ハリソン著 松本春枝訳 宝文
館, 神戸福音館 明40(1907) 284p

<252.5-24>

HAVEN, Joseph (1816~1874, 米) 国教会
牧師, 教育者。シカゴ大の精神および道徳科学の教授
もつとめた。

Mental philosophy including intellect,
sensibilities and will, 1857. <2-20>

㉕心理学 約瑟・奚般著 西周訳 文部
省 明8~9(1875~76) 和3冊 本文
計250丁 <特35-212>

〔はじめて「心理学」という術語が用い
られたものであるが, 実はこれは訳序
に, 原題は「智情意三部ヲ包括セル心理
哲学ト云フ義ナリ, 今約シテ心理学ト名
ク」とあるように, psychology の訳語
ではない。書名において「心理学」が
psychology の訳語として用いられた最
初の例は恐らく(6)である。㉖以前に明治
7年(1874)西周著「致知啓蒙」では
「性理学 [Psychology or mental phi-
losophy]」とある。訳は原書の1869年版
によっている〕

㉗奚服氏著心理学 約瑟奚般著 西周訳
文部省 明12(1879) 2冊 本文計
1,135p <35-49>

〔㉖と同内容。正訳表5pと引用書目7
pを附す。奚服と奚般はママ〕

㉘奚服氏心理学 約瑟奚般著 西周訳
小笠原美治翻刻発行 明14(1881) 2
冊 本文計1,135p <30-34>

〔84〕と同版。但し誤植訂正済]

⑧⑨ 癸服氏心理学 約瑟癸般著 西周訳
竹川新四郎翻刻出版 明治書房発行 明
20 (1887) 上下合冊 本文計921 p
<23-51>

HELLWIG, Bernhard (? , 独)

Die vier Temperamente bei Kindern ;
ihre Aeusserung und ihre Behandlung
in Erziehung und Schule, [3. Aufl.,
1888].

⑩⑪ 応用児童心理学 ベルンハルト・ヘル
ギト著 桑野礼治訳 元良勇次郎校 富
山 房 明32 (1899) 130 p
<252.5-5>

HERBART, Johann Friedrich (1776~

1841, 独) 教育学の祖といわれ、その基礎として
の心理学を説き、表象力学説を主張した。

Lehrbuch zur Psychologie, 1816.

⑫⑬ 独逸ヘルバルト心理学 ヨハン・フリ
ドリッヒ・ヘルバルト著 国府寺新作訳
述 成美堂 明28 (1895) 194 p
<72-186>

〔背表紙に続編とあり。原書全3編の第
3編の訳〕

⑭⑮ ヘルバルト心理学 安東辰次郎重訳
黒田定治校 興文社 明29 (1896) 149
p
<68-435>

〔原書第2版 (1834) による Margaret
K. Smith (米) の英訳 A textbook in
psychology, 1891 <108-297> による。
第1~2編の訳〕

⑯⑰ 心理学 ヘルバルト著 神谷四郎重訳
文学社 明30 (1897) 282 p <76-28>
〔⑯〕と同じ英訳による。全3編完訳〕

HÖFFDING, Harald (1843~1931, デン
マーク) 哲学者。下記は体系的総論として広く読ま
れた。

Psykologi i Omrids paa Grundlag af

Erfaring, 1882.

独訳: Psychologie in Umrissen auf
Grundlage der Erfahrung, [2. Ausg.,
1893], übers. von F. Bendixen.
英訳: Outlines of psychology, 1891,
tr. by Mary E. Lowndes.

〔英訳は独訳による。両者共原著者の校
訂による〕

(41) 心理学・上巻 ハラルド・ヘフデング
著 石田新太郎重訳 高等学術研究会
明28 (1895) 336 p <45-250>

〔7章中5章までの訳〕

(42) 訂正改訂心理学 ハラルド・ヘフデ
ング著 石田新太郎重訳 石田新太郎刊
明30 (1897) 増訂2版 474 p

<74-203>

〔全7章完訳〕

* Outlines of psychology, tr. by Mary
E. Lowndes. Seitō Shobō [西東書房],
1902 [明35], 365p. <108-285>

HORNE, Herman Harrell (1874~1946,
米) ニューヨーク大の教育史、哲学史の教授。

The psychological principles of educa-
tion, 1906. <252-H78 p>

(43) 教育の心理学的原則 ホーン著 尾田
信忠解説 目黒書店 明42 (1909) (新
著梗概 第4輯上 p53~93) <78-66>

IRONS, David (1870~1907, 米) ブライ
ン・マウル・カレッジ助教授。

The psychology of ethics, 1903.

(44) 倫理の心理学 アイロンズ著 田中治
六解説 目黒書店 明38 (1905) (新著
梗概 第1輯下 p1~30) <78-66>

JAMES, William (1842~1910, 米) 主著
「心理学原理」(1890) によりアメリカで最も大きい影
響力を持った心理学者。「意識の流れ」を強調し、ま
た生理学を重視した。晩年は哲学者としてプラグマテ
ィズムの指導者。

Psychology, briefer course, 1892.

〈127-96〉

(45)ゼームス氏心理学 福来友吉解説 育
成会 明33 (1900) 242 p (心理学書
解説分冊第4) 〈87-10〉

(46)心理学精義 ウィリアム・ゼームス著
福来友吉訳 元良勇次郎校 同文館 明
35 (1902) 732 p 〈74-358〉

Talks to teachers on psychology, and
to students on life's ideals, 1899.

(47)教授の心理学 ウィリアム・ゼームス
著 真垣敬受抄訳 金港堂 明34(1901)
158 p 〈263-87〉

(48)教育心理学講義 ウィリアム・ゼーム
ス著 福来友吉訳 弘道館 明41(1908)
253+39 p 〈252-180〉

〔講演「休養の福音」を付する〕

JOLY, Henri (1839~1925, 仏)

Psychologie des grands hommes, 1883.

(49)偉人の心理 ヘンリ・ジョリー著 前
田長太訳 開発社 明41 (1907) 217 p
〈63-111〉

JUDD, Charles Hubbard (1873~1946,
米) シカゴ大心理学教授。

Genetic psychology for teachers, 1903.
〈252- J 88〉

(50)発生心理学 (児童教育之科学的根柢)
チャールス・ハバード・ジャッド著 大
瀬甚太郎, 山本源之丞訳 大日本図書
明44 (1911) 414 p 〈252-202〉

Psychology; general introduction, 1907.
〈190-37〉

(51)心理学概論 ジャッド著 桑田芳蔵解
説 目黒書店 明42 (1909) (新著梗概
第4輯上 p 224~247) 〈78-66〉

KAGA, Hidekazu (加賀秀一) (? , 日)

* A psychological study of the modern
Japanese. Yoshioka [吉岡書籍店],
1888 [明21], 18p. 〈A-16〉

〔当時唯一の半月刊英字誌 “The Stu-
dent” よりの抜刷〕

KAY, David (? , 英)

Memory; what it is and how to improve
it, 1888.

(52)記憶術 ケー著 淡江保訳 博文館
明27 (1894) 177 p (寸珍百種第48編)
〈71-157〉

〔Ribot の Diseases of memory. (Les
maladies de la memoire, 1881) より数
節を訳して補す, とあり。かなりの自由
訳〕

KING, Henry Churchill (1858~1934,
米) オーベリン・カレッジの哲学, 神学の教授から総
長もつとめた。

Fundamental principles of rational livi-
ng.

(53)合理的生活の原理 キング講演 石川
林四郎通訳 明43 (1910) 135 p
〈25-962〉

〔来日中日本基督教青年会同盟における
講演会第1~4回の記録〕

KIRKPATRICK, Edwin Asbury (1862
~1937, 米) 心理学者。コロンビア, シカゴ, コー
ネル等の講師を歴任。

Fundamentals of child study; a discus-
sion of instincts and other factors in
human development with practical
applications, 1903. 〈252. 5-K63〉

(54)児童研究の原理 カークパトリック著
日田権一訳 谷本富校 明43 (1910)
494 p 〈252. 5-31〉

KÜLPE, Oswald (1862~1915, 独) ヴェ
ルツブルグ学派の創始者。内観法により意志や思考を
研究した。

Grundriss der Psychologie, 1893.

(55)キュルペ氏心理学概論 市川源三解説
育成会 明33 (1900) 184 p (心理学
書解説分冊第7) 〈87-10〉

ケルハルト, アドルフ・フォン (? , 独)

原題, 刊行年不詳

66実験記憶法 アドルフ・フォン・ケルハルト著 小林缺太郎訳 独逸医学研究会 明26 (1893) 50p <19-397>

LADD, George Trumbull (1842~1921,

米) 哲学者。ジェームズの「心理学原理」に先んじて「生理学的心理学」(1887)を著わし, アメリカ心理学の開拓者となった。

Outline of physiological psychology, 1891. <109-106>

67生理的心理学 ツランブル・ラッド著 渡辺千治郎訳 中外出版社 明34(1901) 402p <91-73>

Primer of psychology, 1894.

68初等心理学 ジオルジ・トランブル・ラッド著 尾田信忠訳 富山房 明30 (1897) 316p <76-84>

* Primer of psychology. Seitō Shobō [西東書房], 1905 [明38], 224p.

<158-85>

Psychology, descriptive and explanatory, 1894. <126-14>

69ラッド氏記述的説明的心理学 雀部顯宣解説 育成会 明34 (1901) 211p (心理学書解説分冊第11) <87-10>

原題不詳

60教育学ニ応用シタル心理学 ジー・テュー・ラッド講述 浮田和民通訳 帝国教育学編 中島力造校 文学社 明33 (1900) 360p <252-97>

[来日中, 明治32年7月帝国教育会における講演]

原題不詳

61ラッド氏心理学講演 塚原政次抄訳 富山房 明34 (1901) 168p <91-76>

[来日中, 明治32年9月25日~10月6日の帝大における10回の講演を, The philosophy of mind, 1895 <197-331>を

参照して抄訳]

LE BON, Gustave (1841~1931, 仏) 社会心理学者。群衆の非合理性を論じ, 群衆心理学を開いた。

Les lois psychologiques de l'évolution des peuples, 1894.

62ルボン氏民族心理学 塚原政次解説 育成会 明33 (1900) 113p (心理学書解説分冊第5) <87-10>

[アール・テレチュエブの英訳 The psychology of peoples, 1898による]

63民族発展の心理 ギュスターヴ・ルボン著 前田長太訳 大日本文明協会 昭43 (1910) 226p (大日本文明協会刊行叢書第28編) <78-98>

Psychologie des foules, 1895.

64群衆心理 ボン著 [大山郁夫訳] 大日本文明協会 明43 (1910) 312p (大日本文明協会刊行叢書第34編) <78-98>

LEHMANN, Alfred Georg Ludvig (1858~1921, デンマーク) コペンハーゲンに実験室を開設, 感情研究で知られる。

Hovedlovene for det menneskelige Følelseliv, 1892.

独訳: Die Hauptgesetze des menschlichen Gefühlslebens, 1892, übers. von Bendixen.

65レーマン氏感情生活之原則 石幡伊三郎解説 育成会 明35 (1902) 208p (心理学書解説分冊第1) <87-10>

LIGNEUL, A. François (? , 仏)

原題, 刊行年不詳

66実験界と迷信界 リギョル著 前田長太訳 石川音次郎刊 明34 (1901) 104p <82-266>

LINDNER, Gustav Adolf (1828~1887, オーストリア) プラーク大教授。ヘルベルト学派に属し, 社会心理学を重視した。

Lehrbuch der empirischen Psychologie

als induktiver Wissenschaft, 1858.

<92-178>

* Manual of empirical psychology as an inductive science; a text-book for high schools and colleges. tr. by Chas. De Garmo, [1889]. Y. Uchida [内田芳兵衛翻刻], 1893 [明26], 274p.

<103-58>

67) 麟氏実験心理学 リンド子ル著 田中治六, 三石賤夫訳 有賀長雄校 牧野書房 明27~28 (1894~95) 2冊 549p

<72-96>

[De Garmo の英訳も参照しての訳]

68) 麟氏実験心理学 リンド子ル著 田中治六, 三石賤夫訳 有賀長雄校 丸善 明30 (1897) 増訂2版 479p (上下合冊) <74-133>

LOMBROSO, Cessare (1835~1909, 伊) 犯罪人類学者。天才と狂気の類似を論じたことで有名。

Genio e follia, 1864.

69) 天才論 ツェザアレ・ロムブロゾオ著 畔柳郁太郎抄訳 普及舎 明31 (1898) 211p (新撰百種第5編) <76-99>

(たなか・くにお 索引課副主査)

